

■西山宗因 俳人、連歌師。談林俳諧の祖。貞門の形式主義を排して平易な独自の俳境拓き、芭蕉らの登場を準備した。

にしやまそういん

徳川家康隠居1605＝ 肥後国八代で、麦島城城代加藤正方の家臣の子に生まれる。

家康駿府退隠1607＝ 2歳：

剃髪教禁止・1612＝ 7歳：熊本積将寺の僧豪信僧都に和歌を学び、

大坂冬の陣・1614＝ 9歳：

大坂夏の陣・1615＝10歳：この年、祖父が大坂夏の陣で壮烈な戦死。

徳川家康没・1616＝11歳：熊本城主加藤忠広の小姓となるが、

・・・・・・1618＝13歳：父が死去してか、帰郷して跡を継ぎ、城主加藤正方の小姓になると、その感化を受け連歌をはじめ、

菱垣廻船始・1619＝14歳：この年、加藤正方が地震で崩壊した麦島城に代わる八代城の築城を始める。

支倉常長帰国1620＝15歳：この頃から、連歌に熱中するようになり、

元和大殉教・1622＝17歳：正方の配慮で遊学を兼ねて、京都伏見の留守居屋敷詰となる。この年、八代城が完成。

徳川家光将軍1623＝18歳：

寛永寺創建・1625＝20歳：幕府御絵師狩野探幽の妹を妻に迎える。

紫衣勅許無効1627＝22歳：長男宗春が誕生。

・・・・・・1628＝23歳：里村南家2代昌琢の興行に際して、正方と百韻一卷を著す。

糸割符拡大・1631＝26歳：正方と興行を行い、両吟千句を残す。

徳川秀忠没・1632＝27歳：主家加忠広の改易によって浪人となり、主君正方は京都に隠棲、剃髪して風庵と号する。

鎖国令始・1633＝28歳：他藩からの高禄での招聘も断り、主君を追うように上洛。その旅日記「宗因飛鳥川」。昌琢に再会して師事するうち、里村南家に座を連ねる重頼(松永貞徳の高弟)・徳元ら俳諧師の影響で俳諧に興味を抱き、

鎖国令Ⅱ・1634＝29歳：「かけきやは都にことしやとの春」、

参勤交替始・1635＝30歳：「三十といひ又あらたまる今年哉」など、*早くも傑作。

東照宮完成・1636＝31歳：この年、昌琢が死去。

寛永飢饉始・1640＝35歳：風庵(正方)とともに江戸に出て、旧友らと連歌百韻を興行(「名連集」)。

家光鎖国完成1641＝36歳：

初の高札・1642＝37歳：北村季吟や松永貞徳に師事して、俳諧の学を深める。

寛永飢饉終・1643＝38歳：大坂天満宮の連歌所宗匠に就任。

明滅亡・1644＝39歳：江戸行きで浪人ながら奔放な振る舞いをしたとして、風庵(正方)が京都から追放となり、離別。

・・・・・・1647＝42歳：引き続き、大坂天満宮の連歌所宗匠に就任し、のちに、連歌師談林俳諧の祖とされることになる。

市中諸法度・1648＝43歳：この年、風庵(正方)が追放先で死去。

慶安御触書・1649＝44歳：「正方一周忌に「追善独吟千句」。正方家臣の殉死を悼んで「独吟百韻」。

御蔭参流行・1650＝45歳：

徳川家光没・1651＝46歳：

野郎歌舞伎始1653＝48歳：この年、*貞徳が死去。「津山紀行」で、初めて俳諧の発句を披露。

・・・・・・1656＝51歳：天満宮の傍らに向栄庵を建て、俳諧の隆盛を祈願し、檀林の額を挙げ、「神やうけしついでよるべの菊の水」と詠んで新生面を開く。

明暦の大火・1657＝52歳：

朱舜水帰化・1659＝54歳：

・・・・・・1660＝55歳：梅盛編「俳仙三十六人」中に名を挙げられ、

諸宗寺院法度1665＝60歳：「大坂俳諧雪千句」で10人の点者に加えられるまでになり、

酒井忠清大老1666＝61歳：次男が死去。

入鉄砲出女令1667＝62歳：妻が死去。

足利学校再建1668＝63歳：

ジャクシャインの乱 1669＝64歳：前小倉藩主小笠原忠真の三年忌にその墓に詣で、

・・・・・・1670＝65歳：法雲禪師のもとで出家、連歌所宗匠の地位を一子宗春に譲って、さらに俳諧に熱中する。「神社啓蒙」刊。貞門や守武などから異端者呼ばわりされる一方、新風を模索していた大坂の西鶴・惟中、京の高政、江戸の松意・桃青(芭蕉)など気鋭の新人たちから熱狂的支持を受け、

東南海運確立1672＝67歳：「職原抄句解」刊。

越後屋オープン 1673＝68歳：「中臣祓白雲抄」刊。「西翁十百韻」。

・・・・・・1674＝69歳：「西山宗因蚊柱百句」「西山宗因釈教俳諧」、「日本書紀神代私説」刊。

談林派俳諧・1675＝70歳：宗因判「大坂独吟集」。*西鶴らに推されて、新風の盟主にまつりあげられる。江戸に出て「江戸俳諧談林十百韻」を催行し、この新風が以後談林派と呼ばれるようになるが、

・・・・・・1676＝71歳：「宗因五百句」、

・・・・・・1677＝72歳：「宗因七百韻」、

越後騒動・1679＝74歳：芭蕉と会う。

徳川綱吉将軍1680＝75歳：

自身は俳諧を連歌の余技としてしか見ておらず、急激な流行に対処できずに連歌の世界へ回帰して行き、病気で没した。

好色一代男・1682＝77歳：